

M-DL-GOPT(fibreACE)取付ガイド

M-DL-GOPT(fibreACE)は、Allen&Heath dLive I/Oポートに接続できる複数のオーディオネットワークングオプションの1つです。128x128ch、96kHzのLANまたは光ファイバーのポイントツーポイント・リンクを、別のdLive ミキシング・システムに提供します。また、MixRackとSurfaceをEthernetケーブルの代わりに光ファイバーで接続する場合にも使用できます。

fibreACEカードは、独自のAllen&Heath gigaACEプロトコルを使用して、オーディオとCoE(Control over Ethernet: イーサネットを経由した制御)を伝送します。レイテンシーが非常に低く、ケーブルリダundant機能を搭載し、同じ接続でTCP/IPネットワーク制御をトンネルできます。

※光ファイバーアプリケーションには、最長500m以内のツアリンググレードのOpticalCON Duoマルチモードケーブルを使用します。OpticalCON Duoは、頑丈で耐久性のある金属製ハウジングに標準LC-Duplexコネクタを搭載したモデルです。

※LANケーブルを使用する場合は、STP/FTP CAT5e以上のシールド・ツイストペアLANケーブルをご使用ください。

最大ケーブル長: 100m以内(ケーブル性能、環境による)。

安定した動作のために、ケーブル長は、必要以上に長くしない事をおすすめします。

※Allen&Heathでは、長さの異なるドラム式の推奨ケーブルを用意しています。製品については、www.allen-heath.comを参照してください。

※M-DL-GOPTには、dLiveファームウェアV1.4以降が必要です。

カードの取付

1. システムの電源を切ります。
2. dLive MixRackまたはサーフェイスに固定されたI/Oポートダミーパネルの4本のネジを外します。
3. カードをスロットに差し込み、受け側のコネクタにしっかりと押し込みます。
4. 4本のつまみネジを締めてカードを固定します。



フロントパネル

動作モード

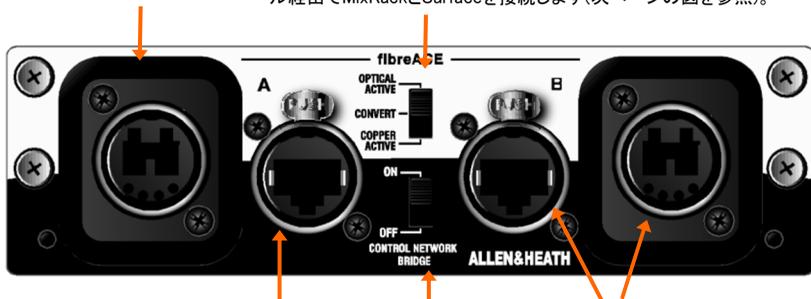
Port A optical

オプティカルCON Duoコネクタ(LC-Duplex互換)です。光ファイバー用途に使用します。

Optical Activeに設定すると、別のdLiveシステムへの光ファイバーリンクで128x128、96kHzインターフェースとして使用できます。

別のdLiveシステムにLANケーブルリンクで128x128、96kHzインターフェースとして使用するには、**Copper Active**に設定します。

Convert(変換)に設定すると、LANケーブルの代わりに光ファイバーケーブル経由でMixRackとSurfaceを接続します(次ページの図を参照)。



Port A copper

LANケーブルアプリケーション用のEtherConコネクタです。

Port B

オプションのリダundantバックアップ接続です。

コントロールネットワークブリッジ

Optical ActiveモードまたはCopper Activeモードでは、dLive制御データとサードパーティのEthernetデータをfibreACE接続経由でトンネリングできます。たとえば、Directorを実行しているノートパソコンでFoHまたはモニターシステムを制御できるように、このスイッチをデジタルスプリットに設定します。

- ※コントロールネットワークブリッジを有効にする前に、ネットワーク上のすべてのデバイスが同じサブネット内で独自のIPアドレスを持っていることを確認してください。
- ※コントロールネットワークブリッジはConvertモード時、無効となります。

Optical ActiveモードとCopper Activeモード

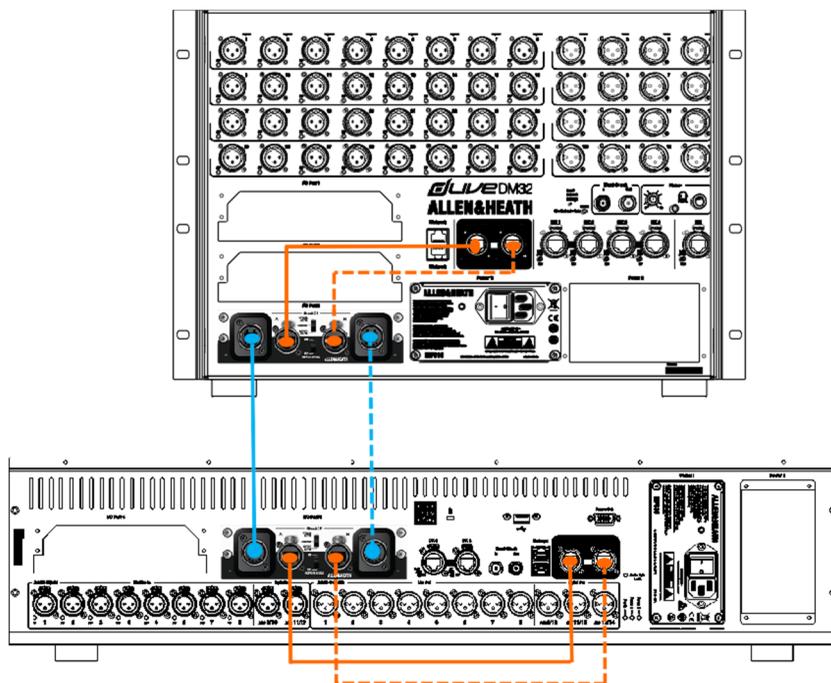
dLiveのI/O画面を使用して、I/Oポート間またはI/Oポート間で信号をパッチします。

MixRack/Audio/Audio Sync画面でクロックソースを選択します。マスターシステムではInternalに、ネットワーク(クロックスレーブ)システムでは関連するI/Oポートに設定します。

※dLiveの設定と機能の詳細については、www.allen-heath.comでダウンロードできるdLiveファームウェアリファレンスガイドを参照してください。

Convertモード

MixRack/サーフェイスのgigaACEポートAを、短いLANケーブル(STP/FTP CAT5e以上のシールド・ツイストペア)を使用して、それぞれfibreACEカードのポートA EtherConにバッチします。リダント用に2本のケーブルを使用します(CDM MixRacks およびCクラスサーフェイス では使用できません)。ソフトウェアの設定は必要ありません。



光ファイバーに関する注意事項



本機はClass 1の光学レーザー製品であり、その仕様の範囲内で操作を行ってください。

- ※放射される光は、赤外線であり肉眼では確認できません。レーザー光はもちろん、光ファイバーの光を直接見る事を避けるように習慣付けてください。

良好なシステムパフォーマンスのために:

- ※光ファイバーケーブルを、きつい曲線で折り曲げないでください。光の伝送に影響を与えファイバーケーブルに永久的な歪みを与える可能性があります。ご使用になるケーブルの屈曲率の確認をすることをおすすめします。
- ※汚れに注意してください。光学開口部を覆う微量の汚れは、光透過を劣化させ、ファイバーに永久的な表面損傷を引き起こす可能性があります。使用しないときは、必ずエンドキャップを取り付けてください。
- ※コネクターの清掃は、適切な製品でのみ行ってください。指、綿棒、布などは使用しないでください。グリースや糸が残る可能性があります。